
小出記念日本語教育学会について

2024年度活動報告

年次大会開催履歴

小出記念日本語教育学会紹介

小出詞子先生について

学会組織図・2024年度役員一覧

会 則

論文集34号投稿規定

小出記念日本語教育学会 2024年度活動報告

本会の2024年度の活動は以下の通りである。コロナ禍に入って以来、対面でのイベントが中止となっていたが、今年度はワークショップの形で実施した。ただし、距離や時間的な問題から参加できない会員もいることが想定されたため、ハイブリッドによる開催とした。このワークショップについては次ページの開催報告を参照されたい。

1. 会員総会 2024年6月29日（土） オンライン（Zoom）開催

2023年度事業報告、2023年度決算報告及び監査報告、2024年度事業計画、2024年度予算、2024年度役員選任を承認した。

2. 年次大会・ワークショップ

日時	形態	事業	備考
2024年 6月29日 (土)	オンライン (Zoom)	第33回 年次大会	講演「生成AIと言語教育は共存できるか」 講師 高橋薫氏（創価大学学士課程教育機構准教授 総合学習支援センター副センター長）
2024年 9月7日 (土)	ハイブリッド (対面はICU)	2024年度 第1回 ワークショップ	「地域日本語教育：末長くサポートを続ける秘訣公開——地域に根差した日本語教育で、未来を創る！」 講師 山形美保子氏（東京都杉並区ボランティア団体「LTC友の会」副代表） 金澤協子氏（兵庫県高砂市国際交流協会）
2024年 12月8日 (日)	オンライン (Zoom)	2024年度 第2回 ワークショップ	「t検定」 講師 斉藤信浩氏（創価大学文学部教授）
2025年 3月17日 (月)	オンライン (Zoom)	2024年度 第3回 ワークショップ	「二つ目の言語で書く力をどう育てるか：理論から実践へ」 講師 保田幸子氏（神戸大学大学院国際文化学 研究科国際コミュニケーションセンター 教授）

3. その他

論文集アーカイブを学会ウェブサイトに移行し、論文集33号よりオンラインジャーナルとして発行した。31号・32号についても論文以外の原稿を公開した。

2024年度：小出記念日本語教育学会 ワークショップ開催報告

金澤協子（高砂市国際交流協会・神戸学院大学）

1. 開催概要

題目：2024年度 第1回ワークショップ（ハイブリッド開催）
地域日本語教育 ―末長くサポートを続ける秘訣公開― 地域に根差した日本語教育で、未来を創る―

発題者：山形美保子氏（杉並区ボランティア団体「LTC 友の会」副代表）
金澤協子（高砂市国際交流協会にほんごサロン ファシリテーター）

日時：2024年9月7日 15時～17時

場所：国際基督教大学 東ヶ崎潔記念ダイアログハウス

参加者数：対面13名・オンライン（Zoom利用で第1セッションのみ）16名

担当理事：小澤伊久美・金澤協子

2. ワorkshop開催の目的

発題者の山形美保子氏は、杉並区ボランティア団体「LTC 友の会」の中心的なメンバーとして、1994年の団体立ち上げ期から現在に至るまで、地域との連携を大切にしながら日本語教育を進めていらっしゃる。

長きに亘って活動を維持する上で、どのような課題があり、それに如何に対応されたのか等の秘訣を伺う貴重な機会を設ける事で、地域日本語教育に携わっている会員との情報共有と親睦を図る事が出来ればと考え、ハイブリッド開催する運びとした。

3. プログラム内容

3.1 金澤協子：高砂市国際交流協会にほんごサロン ファシリテーター

高砂市国際交流協会「にほんごサロン」について、開講の経緯と運営状況を共有した。

2021年：兵庫県地域日本語教育体制を整備する事業の一環として、また、文化庁国庫補助による兵庫県国際交流協会東播磨地域モデル事業として開講の手筈となった旨をお知らせした。

「にほんごサロン」は教室・授業ではない事、外国人と日本人ボランティアサポーターが同じ土俵でおしゃべりが出来る場所として存在する事を示し、単なるおしゃべりで終わらない工夫と、サロン終了後にサポーターのモヤモヤを解消する時間を必ず取っている事をお知らせする機会となった。

3.2 山形美保子氏：杉並区ボランティア団体「LTC友の会」副代表

1994年から外国人の日本語学習サポートをなさっている「LTC友の会」は、ボランティアスタッフ38名で、世界30の国・地域の学習者が約60名在籍されている。教室形態は、対面式・オンライン式で、阿佐ヶ谷教室は火曜・木曜、西永福教室は土曜に開催されている。

「LTC友の会」の成り立ちは、1991年に杉並区国際交流協会が設立された事による日本語交流講座が源流となり、その講座が終了した受け皿として立ち上げられた。

学習者は主に杉並区在住者で、教育機関等の学ぶ場所がある場合は御遠慮願ひ、10回毎に受講料3,000円を支払う事となっている。

教室形態は、グループ形式とマンツーマン形式で対応され、学習者が入門～初級レベルはグループ形式で、担当スタッフは日本語教師経験者である。また、ある程度日本語が話せるレベルにはマンツーマン形式で、「ふつうの日本人」が担当なさっている。

ボランティアスタッフは、「LTC友の会」入会前に数回の教室見学が課され、コーディネーターを兼務している代表・副代表が面談を行なっている。また、入会時には、「ボランティア心得」に目を通して貰ひ、入会後にも勉強会や講習会に参加して貰っているとの事だった。

30年の活動を通じて、苦勞なさっている事（スタッフの確保・場所の確保）と、継続が叶う対応としての基本的な思いを共有下さった。ボランティアだから無理はしない事、しかし、ボランティアでも責任感を持って対応する事、そして、外国人学習者と区民としてお付き合いをする事、何よりも「何とかなる！」と信じ活動をなさっている事が共有され、オンライン画面上の参加者も対面での参加者も、大きく領く事となった。

事前に受けていた質問にも、時間が許す限り回答頂けた。

3.3 座談会部分と参加者の反応等

コロナ以降の学習者増加に対する対応・日本人サポーターへの対応等について、地域日本語教育経験者から有り難い示唆を頂いた。

また、「次の世代に繋げる」今後の活動についても、大きな話題となった。社会人としての日本人ボランティアに参画頂く事で、外国人にも有益な情報が叶う存在である事も確認出来た。そして、先輩外国人がモデルケースとなるようキーパーソンとして大きな存在である事も共通認識となった。

対面・ハイブリッド開催であった旨、概ね、良好な反応であった事を報告したい。

小出記念日本語教育研究会時代及び学会移行後の年次大会開催履歴

年度	回	日時	開催場所	テーマ
1992	第1回	1992/6/28	国際基督教大学	基調講演「外来語と日本語教育」 柴田 武
1993	第2回	1993/7/3	国際基督教大学	ワークショップ「日本語教師の自己点検」 谷口すみ子・石井恵理子・田中幸子 特別講演「日本語文法論の創造性：ICU教科書によせて」 ネットブック「J.V 「日本語教科書編集のおもしろさ・むずかしさ」 小出詞子
1994	第3回	1994/6/25	国際基督教大学	特別講演「照応名詞句制約について」 久野 暉
1995	第4回	1995/7/2	姫路獨協大学	特別講演「韓国語の述語の構造」 梅田博之
1996	第5回	1996/6/22	国際基督教大学	特別講演「所有傾斜—日本語の敬語などに見られる所有の表現—」 角田太作
1997	第6回	1997/7/5	国際文化会館	パネルディスカッション「現状から、これからの日本語教育を考える」 司会：上野田鶴子 パネリスト：来嶋洋美・齋山弥生・村野良子・安田芳子・林川玲子
1998	第7回	1998/7/4	国際文化会館	パネルディスカッション「諸機関からの現場報告と話し合い」 司会：谷口聡人 パネリスト：柏木美和子・寺田和子・池田 裕・宮崎妙子
1999	第8回	1999/7/3	東京女子大学	パネルディスカッション「学部レベルにおける正規留學生の受け入れと教育を巡る問題」 司会：柳澤好昭 パネリスト：小野幸嗣・御園生保子・谷口聡人・山口あき子
2000	第9回	2000/7/1	東京女子大学	シンポジウム「学習者から見た日本語教育—語彙の学習法—」 司会：佐々木倫子 発表者：柯錫宏・金賢珍・ヒダコビツチ、ミラン・山本イヴェット
2001	第10回	2001/7/7	東京女子大学	シンポジウム「現場での音声教育—日本語らしさとは—」 司会：谷口聡人 発表者：鮎澤孝子・小河原義朗・松崎 寛
2002	第11回	2002/7/6	東京女子大学	シンポジウム「作文の評価をめぐって」 司会：嶽肩志江 発表者：石橋玲子・池田玲子・石田敏子
2003	第12回	2003/7/5	東京女子大学	シンポジウム「インターネットを利用した日本語教育」 司会：根津 誠 パネリスト：川村よし子・島田徳子・古川嘉子・柳澤好昭
2004	第13回	2004/7/3	姫路獨協大学	シンポジウム「日本語教師が直面する『溝』を乗り越える」 司会：小澤伊久美 パネリスト：瀬古悦世・野山 広・淵上克義

小出記念日本語教育研究会時代及び学会移行後の年次大会開催履歴

年度	回	日時	開催場所	テーマ
2005	第14回	2005/7/2	東京女子大学	ワークショップ「教育現場でのコンフリクトの解決を目指して」 基調講演「協調的問題解決の視点から」 八代京子 分科会「協調的問題解決を実践する参加型分科会」 鈴木有香
2006	第15回	2006/7/1	東京女子大学	ワークショップ「レベル差のある学習者のいるクラスへの対応」 [予備教育 (日本語学校)] 日本語学校における学習者の多様化による「差」への対応事例 加藤早苗 [予備教育 (大学)] 日本語習得適性テストを利用したクラス分けとコース運営 ～集中予備教育コースでの直接法をアレンジした教育～ 鈴木美加 [大学院生・研究生のクラス] システムによるレベル差対応 菅谷有子・山崎佳子・岩崎夕子・古市由美子・金子広幸・松田みゆき [技術研修生のクラス] 技術研修生対象日本語教室において 菊竹恭子・青木美和 [個人の中での能力の差] 個人の中での能力の差 内田紀子 [海外の日本語教育] レベル差クラスでの「聞き手を意識させる」発表指導について 清水まさ子
2007	第16回	2007/6/30	東京女子大学	シンポジウム・ワークショップ「話し言葉の教育」 [初級] 日本語交流活動のための教材『日本語おしゃべりのたね』 澤田幸子 ワークショップ司会：河北祐子 [中級] 『聞いて覚える話し方日本語生中継初中級編』 ホイクマン総子・宮谷敦美・小室リー郁子 ワークショップ司会：嶽肩志江 [上級] 『日本語上級話者への道』の目指すもの 荻原稚佳子・齋藤真理子・伊藤とく美 ワークショップ司会：嶋田和子
2008	第17回	2008/6/28	東京女子大学	ワークショップ「年少者に対する読解教育」 基調講演 石井恵理子 ワークショップ司会：樋口万喜子 成人定住者に対する読解教育 北川裕子 ワークショップ司会：河北祐子 留学生に対する読解教育 二通信子 ワークショップ司会：嶋田和子

小出記念日本語教育研究会時代及び学会移行後の年次大会開催履歴

年度	回	日時	開催場所	テーマ
2009	第18回	2009/9/23	名古屋外国語大学	シンポジウム・ワークショップ 「日本語教育と自律学習者の主体的な学びに向けて」 「自律学習を顕在化させるための学習環境デザイン」 衣川隆生 「豊田市定住者対象のe-learning システム 「TNeとよた日本語eラーニング」と自律学習」 石崎俊子 「自律的な学びを重視した教育実践をめざして—留学生の日本語教育現場における実践例をもとに」 嶋田和子 「外国につながる」を持つ児童・生徒への学習支援—2つの学校の日本語教室の実態より」 松本恭子
2010	第19回	2010/7/3	国際基督教大学	ワークショップ「自律学習」に関して意見交換 A. 生活者（定住者）：石崎俊子、司会：安田芳子 B. 予備教育（大学も含む）：嶋田和子、司会：坂本 正 C. 年少者：松本恭子、司会：横田淳子 講演「教師の意識改革—今日からでさる自己研修—」 「教師の持つ『衣』」 徳井厚子 「授業を使って振り返り」 文野峯子 「教師のピリニアの要因」 久保田美子 「教師の成長と自己研修」 嶋田和子
2011	第20回	2011/7/2	国際基督教大学	シンポジウム 「『伝え合う』とは？—コミュニケーション能力を育む授業を考える—」 (1)「伝えるから伝え合うへ」 池田 修 (2)「多文化共生時代の言葉の教育を考える」 村松賢一 司会：佐々木倫子
2012	第21回	2012/6/30	国際基督教大学	シンポジウム 「学習者の将来・教師の未来—施策との関わりの中で日本語教育を考える—」 (1)「大学日本語教育と政策・施策との関係」 門倉正美 (2)「大学における留学生の出口支援 —早稲田大学キャリアアセンタ—の取り組み—」 豊澤 豊 (3)「現場との連携・協働による日本語教育—浜松の実践より—」 堀 永乃
2013	第22回	2013/6/8	国際基督教大学	ワークショップ 「演劇的アプローチで会話授業が変わる！」 中山由佳

小出記念日本語教育研究会時代及び学会移行後の年次大会開催履歴

年度	回	日時	開催場所	テーマ
2014	第23回	2014/7/5	国際基督教大学	ワークショップ 「ワールド・カフェ」で創る・つながる日本語教育」 工藤和宏
2015	第24回	2015/7/4	国際基督教大学	講演 「コミュニケーションスキルが高まる授業を作る工夫ー理論と実践をつないでー」 清水崇文
2016	第25回	2016/7/2	国際基督教大学	講演「教えるのをやめるー言語学習アドバイジングというもう一つの方法ー」 青木直子
2017	第26回	2017/7/1	国際基督教大学	講演「日本語教育におけるアクティブトランジションを考える」 館野泰一
2018	第27回	2018/6/30	国際基督教大学	講演「『言語技術トレーニング』から明日の日本語教育を考える」 三森ゆりか
2019	第28回	2019/6/29	国際基督教大学	講演「第二言語学習者の情意的要因ー多様な学習者と向き合うためにー」 八島智子
2020	第29回	2020/6/27	オンライン	講演 「学習科学の視点から見た21世紀型スキルと言語学習ー変化の時代における新しい学びと評価を支えるー」 白水 始
2021	第30回	2021/6/26	オンライン	講演 「withコロナ時代における日本語授業の設計ーインストラクショナル・デザインの手法を生かしてー」 鈴木克明
2022	第31回	2022/6/25	オンライン	講演「日本における移民の現状と移民政策ー移民労働者受け入れ政策に着目してー」 高谷 幸
2023	第32回	2023/6/24	オンライン	講演「『登録日本語教員』の制度と日本語教育分野への影響」 伊東祐郎
2024	第33回	2024/6/29	オンライン	講演「生成 AI と言語教育は共存できるか」 高橋 薫

小出記念日本語教育学会について

本学会の前身である小出記念日本語教育研究会は、日本語教育に多大な貢献をされた小出詞子（こいで ふみこ）先生（国際基督教大学名誉教授・姫路獨協大学名誉教授）の古稀をお祝いする会（1991年）が発端となり、1992年に発足した全国規模の研究会でした。

現場と研究が一体となっ**て**こそ日本語教育の進展があるとの考えに基づき、現場からの研究の成果を発表する場、および、理論を追究する研究者が現場とどうつながるのかを問うなどの発表の場として、年に一回の研究論文集の発刊の他に、毎年夏に研究会を開催してきました。

2021年6月26日の会員総会において、発足から30年となったことを契機に、2022年4月1日より学会に移行することが承認されました。

本学会は、「現場と研究が一体となっ**て**こそ日本語教育の進展がある」との小出先生の考えに基づき、現場からの研究成果の共有および理論を追究する研究者から現場への提案の場を構築することを目的として活動しています。

※本学会は、言語学系学会連合会員、日本学術会議協力学術研究団体です。

会員の特典

その年度の会費を所定の期日までに納めた会員には以下の特典があります。

1. 年次大会への参加・発表

- 年次大会への発表申込み：2～3月ごろ
- 年次大会への参加：6月末～7月初め（参加費は会員無料、非会員2000円）

2. 『小出記念日本語教育学会論文集』への投稿

- 投稿の受付期間：毎年7月25日から8月17日まで

3. 本学会主催ワークショップ等への参加

4. 会員専用メーリングリストへの参加

- 学会からのご案内、会員間の情報交換などをメーリングリストを通じて行います。

5. 会員総会への参加

- 会員総会に出席し、審議を行う権利と義務を持っています。

《諸手続き》

入会手続

本会の趣旨に賛同し、入会を希望する方は、本会ウェブサイトから「入会申し込み書」を提出するとともに年会費を4000円を以下の口座のいずれかへ納付してください。ご本人名義ではないお振り込みの場合は、その旨、会計にご一報ください。

【郵便貯金口座・ゆうちょ銀行からの払い込み】

記号：10170 番号：42855931

加入者名：コイデキネンニホンゴキョウイクガッカイ

【ゆうちょ銀行以外の金融機関からの振り込み】

店名：〇一八（「ゼロイチハチ」と読みます） 店番：018

預金種目：普通預金 口座番号：4285593

口座名：コイデキネンニホンゴキョウイクガッカイ

退会手続

退会を希望する方は、本会ウェブサイトから「退会届」をご提出ください。

会員情報の更新手続

会員情報の更新を希望される場合には、本会ウェブサイトから「会員情報更新届」をご提出ください。

年会費について

会員資格を継続される場合、毎年5月末までに年会費4000円を所定の口座にお支払ってください。

- 会計年度は4月1日から翌年3月31日
- 年度途中の入会者も同額
- 年度途中の退会者への年会費返金なし

小出記念日本語教育学会

〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2

国際基督教大学日本語教育プログラム 小澤研究室気付

FAX：0422-33-3773 電子メール：office.koide.kinen@gmail.com

ウェブサイト：<https://koidekinen.org/>

小出詞子先生について

小出詞子（ふみこ）先生は、理論と実践において世界の日本語教育の開拓者・指導者でありました。また、人間愛を身をもって体現された方でもありました。先生の著書、講演、講義などで直接間接に指導を受けた日本語教師は数え切れないでしょう。日本及び海外の大学、関係諸機関の仕事を積極的になさり、日本語教育の発展に大きく寄与なさいました。1993年には、その功績に対し勲四等瑞宝章が授与されました。先生のご活躍の一端を紹介します。

先生は21年鹿児島市生まれ。42年東京女子大学卒業。43年文部省の第1次派遣日本語教師の1人としてフィリピンに赴く。48年長沼直兄先生から新設の東京日本語学校に招かれる。50年第1回ガリオア奨学金を得てミシガン大学に留学。後、同大学の言語学修士号を取得。国際基督教大学（ICU）開学の53年から留学生に対する日本語集中教育を始める。先生の理論に基づいた教科書の作成、教授法の確立を目指してICUの日本語教育の第一歩が先生によって踏みだされた。その後ICUから多数の日本語教師が輩出することになる。先生は日本言語学会、国語学会などでの研究発表も活発に行う。62年「外国人のための日本語教育学会」（現在「日本語教育学会」）設立の原動力となる。67年フルブライト奨学生としてマサチューセッツ工科大学とハーバード大学で研究。短波放送Let's Learn Japaneseに対し、71年文部大臣賞が授与される。20年近いこの放送は日本語に対する世界の関心を高めることに貢献した。同年モナシユ大学在日日本センター主任。74年、朝日カルチャーセンターの日本語教師養成講座の計画立案に携わり、多くの日本語教師を育てた。87年のICU定年退職と同時に、新設の姫路獨協大学（HDU）の外国語学部日本語学科長に就任。私立大学初の日本語教育の専門課程として全国的に注目される。実習、模擬授業、海外の大学でのインターンシップで鍛えられた院生を含むHDU出身者が国内外で活躍している。91年に「小出先生の古稀をお祝いする会」が催され、それを契機に「小出記念日本語教育研究会」が発足、先生の誕生日6月23日に近い土曜日に開くことになった。第1回は92年にICUで開催。毎年多数の参加者を迎えて開催され今日に至っている。97年HDU定年退職。先生は2002年にお亡くなりになった。

このように、小出先生は常に日本語教育の最先端を信念と使命感を以て厳しく歩まれました。他方、先生は優しい眼差し、温かい笑顔、そして大きな包容力で周囲の者を分け隔てなく包んで下さいました。この厳しさと優しさがこの研究会にも引き継がれています。研究会会場での「本のバザー」も先生の蔵書をもとに始められました。先生の妹さん、小出啓子（さとしこ）先生も生前は毎年のように出席され、この会を支えて下さっていました。先生と啓子様に関心から感謝申し上げたいと思います。

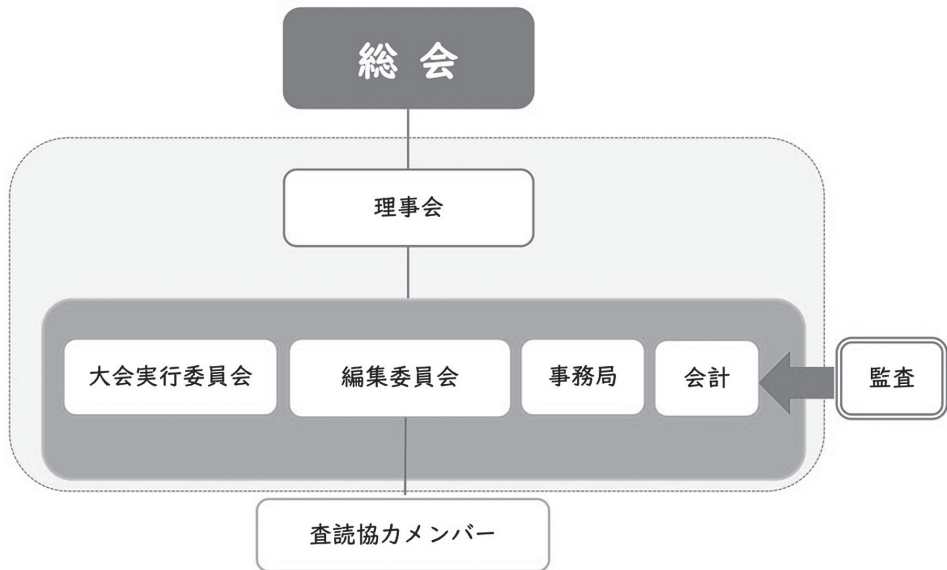
【2010年（2019年改訂） 山田幸宏記】

長らく本会を支えてくださった山田幸宏先生は、去る2024年12月16日に御逝去なさいました。謹みてお悔やみ申し上げます。

学会組織図・2024年度役員一覧

(2024年夏の総会から2025年夏の総会までの役員)

☆は今年度新たに就任、★は再任（敬称略、五十音順、所属は2024年6月1日現在）



<理事>

会長	丸山千歌	(立教大学異文化コミュニケーション学部教授)
副会長	鈴木美加	(東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授)
事務局長	★小澤伊久美	(国際基督教大学日本語教育課程 課程上級准教授)
	金澤協子	(神戸学院大学非常勤講師)
	☆斉藤信浩	(創価大学文学部教授)
	☆坪根由香里	(大阪観光大学観光学部教授)

<大会実行委員>

☆安高紀子	(明治大学国際日本学部特任講師)
野原ゆかり	(獨協大学国際教養学部教授)
☆藤田百子	(東京外国語大学世界言語社会教育センター特任助教)
船橋瑞貴	(早稲田大学准教授)

<編集委員>

- ☆阿久澤弘陽 (京都大学国際高等教育院講師)
浅津嘉之 (関西学院大学日本語教育センター言語特別講師)
麻生迪子 (四天王寺大学人文社会学部准教授)
石澤徹 (東京外国語大学大学院国際日本学研究院准教授)
☆宇佐美洋 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
★太田陽子 (一橋大学国際教育交流センター教授)
☆岡葉子 (帝京大学外国語学部国際日本学科講師)
奥川育子 (二松学舎大学文学部准教授)
★数野恵理 (立教大学日本語教育センター特任准教授)
門脇薫 (摂南大学国際学部教授)
☆栗田奈美 (拓殖大学日本語教育研究所教授)
★小西円 (東京学芸大学留学生センター准教授)
☆嶋津百代 (関西大学外国語学部教授)
☆嶽肩志江 (横浜国立大学教育学部非常勤講師、
東海大学児童教育学部非常勤講師)
鄭在喜 (早稲田大学日本語教育研究センター准教授)
★中井陽子 (東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授)
西島絵里子 (東京医科歯科大学統合国際機構講師)
★根本愛子 (東京大学大学院総合文化研究科准教授)
松下達彦 (国立国語研究所研究系教授)
宮本真有 (名古屋外国語大学世界教養学部講師)

<事務局>

- 嶋原耕一 (東京外国語大学世界言語社会教育センター講師)
☆三浦綾乃 (国際基督教大学日本語教育プログラム非常勤講師)

<会計>

- 早川杏子 (一橋大学国際教育交流センター准教授)
大和祐子 (京都大学国際高等教育院日本語・日本文化教育センター准教授)

<監査>

- 隈井正三 (立命館アジア太平洋大学言語教育研究センター嘱託講師)
★藤田恵 (日本国際教育支援協会日本語試験センター専門員)

小出記念日本語教育学会 会則

制 定 2021年6月26日 会員総会
一部改定 2023年5月31日 理事会承認
2023年6月24日 会員総会

第1条 【名称】

本会は小出記念日本語教育学会（KOIDE Japanese Language Teaching Association）と称する。

第2条 【所在地】

本会を次の所在地に置く。

東京都三鷹市大沢3-10-2 国際基督教大学日本語教育プログラム 小澤研究室

第3条 【目的】

本会は、「現場と研究が一体となってこそ日本語教育の進展がある」との小出詞子（こいで ふみこ）先生（国際基督教大学名誉教授・姫路獨協大学名誉教授）の考えに基づき、現場からの研究成果の共有および理論を追究する研究者から現場への提案の場を構築することを目的とする。

第4条 【事業】

本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 年次大会および必要に応じて学習会やワークショップなどの開催
2. 学会誌『小出記念日本語教育学会論文集（The Journal of KOIDE Japanese Language Teaching Association）』の発行
3. その他、目的を達成するために必要な事業

第5条 【会員】

本会は、次の会員をもって構成する。

1. **一般会員** 本会の趣旨に賛同し、会員登録をした者（以下、会員と称する）。日本語教育に興味・関心を持つ者は、年会費を納めることで誰でも会員になれる。特定の機関での勉学・教育経験などは問わない。
2. **名誉会員** 長年にわたり本会に特に功労があった者。名誉会員は理事会が推薦し、総会で承認する。

第6条 【年会費】

1. 会員は年会費を払う。本会の会費（年額）は4,000円とする。
2. 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
3. 会費は毎年5月末までに所定の口座に振り込むものとする。
4. 年度途中の入会者の年会費も、第1項に記載の金額と同額とする。

第7条 【入退会】

1. 本会の趣旨に賛同し、入会を希望する者は、所定の入会申込書を提出するとともに年会費を納付することとする。
2. 本会の退会を希望する会員は、事務局に退会届けを提出することとする。
3. 所定の年会費を2年間滞納した会員は、2年目の年度末に退会扱いとする。
4. 年度途中に退会しても年会費は返金しない。

第8条 【会員の権利と義務】

本会の会員は、以下の権利と義務を有する。

1. 会員は年次大会において研究発表・実践報告を行う権利、および学会誌に投稿する権利を有する。
 2. 会員は総会に出席し、審議を行う権利と義務を有する。
- ただし、上記の二項に規定される権利と義務を有するのは、指定の期日までに当該年度の年会費を納付した会員に限ることとする。

第9条 【役員】

本会に、次の役員を置く。

1. 理事6名 任期は2年、再任可。
会長、副会長、事務局長各1名は理事のうちから選任するものとする。
2. 大会実行委員 4名 任期2年、再任可。
3. 編集委員 20名 任期2年、再任可。
4. 事務局 若干名 任期2年、再任は1回までとする。
5. 会計 2名 任期は2年、再任は1回までとする。
6. 監査 2名 任期は2年、再任可。

第10条 【運営】 本会は次の運営組織をもつ。

1. 総会：規約の改正、理事などの役員の選任、予算・決算、活動計画など、学会の重要事項について審議、決定する。
2. 理事会：学会の運営全般を統括する。
3. 大会実行委員会：年次大会にかかわる業務全般を担当する。
4. 編集委員会：『小出記念日本語教育学会論文集』への投稿論文の査読にかかわる業務全般ならびに編集を担当する。
5. 事務局：学会の運営にかかわる庶務を担当する。また、学会が保有する銀行口座の管理を行う。
6. 会計：会費の徴収および管理、予算・決算にかかわる会計業務を担当する。
7. 監査：学会の予算および決算を監査する。

第11条 【役員の選出】 本会の役員は以下のように選出する。

1. 会長、副会長、事務局長は理事会において互選し、総会で報告する。
2. 理事、大会実行委員、編集委員、事務局、会計、監査は、会員の自薦・他薦によって候補者を募り、それをもとに理事会が推薦者名簿を作成し、総会において承認を得る。

第12条 【役員の任務】

役員の任務を以下に定める。

1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、必要があれば、会長の任務を代行する。
3. 理事は理事会を構成し、年次大会、学会誌の編集、会の事業の企画・運営に関する各委員会からの提案を審議・決定する。
4. 大会実行委員は、年次大会を企画・運営する。
5. 編集委員は別に定める投稿規定、編集要領の細則に基づき学会誌を刊行する。
6. 事務局員は、会員管理やウェブサイト管理をはじめとする学会の運営に関する実務を担当する。事務局長は、事務局の実務を統括する。
7. 会計は本会の経理および会員の年会費を管理する。

8. 監査は本会の会計監査を行う。

第13条 【総会】

総会について以下に定める。

1. 総会は、会員より組織され、理事会が提出する以下の議題を審議し、議決を行う。
定例総会は年に1回年次大会のときに、また臨時総会は会長が必要と認める場合に随時開催する。
 - 前年度事業報告
 - 本年度事業計画
 - 前年度決算と本年度予算
 - 役員の改選
 - 会則の変更
 - その他理事会が認めた事項
2. 総会の議長は総会において選出する。
3. 総会の議決は、総会に参加している会員の過半数の賛同によって決する。

第14条 【年次大会】

年次大会の応募要領、査読に関しては、別途細則を設ける。

第15条 【学会誌】

学会誌の投稿規定、編集要領に関しては、別途細則を設ける。

第16条 【会計年度】

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第17条 【財務】

1. 活動に必要な資金は、会員からの年会費を充てるものとする。
2. 資金については会計が適正に管理を行い、定期的に代表者の閲覧を受けるものとする。

第18条 【会則の改定】

本会則の改定は、理事会によって提案され、総会にて決定する。

附則

1. この会則は2022年4月1日より施行する。
2. この会則は2022年6月25日に改定した（第2条、第5条、第9条～第12条、第17条、第18条）。
3. この会則は2023年6月24日に改定した（第9条）。

以上

<履歴>

- 2021年6月26日 小出記念日本語教育研究会 会員総会にて学会化案とともに承認された。
- 2022年6月25日 小出記念日本語教育学会 会員総会にて改定案が承認された。
- 2023年6月24日 小出記念日本語教育学会 会員総会にて改定案が承認された。

小出記念日本語教育学会論文集 投稿規定

1. 投稿資格

投稿時にすでにその年度の年会費を納入した会員が投稿できます。共同執筆の場合は、投稿時点で筆頭執筆者が会員であること、論文集掲載時には、執筆者全員が会員であることが条件となります。

2. 投稿原稿

2.1 投稿原稿の種類（カテゴリー）

本論文集におけるカテゴリーは「研究論文」「実践報告」「調査報告」「研究ノート」の4区分です。

- (1) 研究論文：日本語教育および関連領域について、先行研究に加えるべきオリジナリティーのある研究成果が、具体的なデータを用いて明確に述べられているもの。研究課題が明確に設定されており、データの分析を通して課題への解答が示されていることが必要です。教育実践の結果に基づき実践研究としてまとめられた論文もここに含まれます。研究論文では、オリジナリティー、実証性、論理性を特に重視して査読が行われます。
- (2) 実践報告：教育現場における実践の内容を具体的、かつ明示的に描き、その結果について整理したもの。「どのような問題意識のもとに」「いつ、どこで、だれが、何を実践し、それによって問題はどうか解決されたか／されなかったか」を示すことが求められます。教育への貢献、情報の有用性、会員への啓発が重視されます。
- (3) 調査報告：言語データ、史的資料、教育の現状分析、意識調査などが明示され、資料的価値が認められる報告が明確に記述されているもの。調査報告では、調査目的の明確さ、調査方法および分析・解釈の妥当性、資料やデータの価値を特に重視して査読が行われます。
- (4) 研究ノート：萌芽的研究課題の提起、少数事例の提示など、中間報告として、更なる展開が予想されるもの。速報性、話題性、発展性が重視されます。

2.2 投稿原稿の内容

- (1) 日本語教育および関連分野に関する未発表のものであること。
- (2) 他誌に掲載済、掲載予定、投稿中のものは、他の言語に翻訳したものも含め、投稿できません。

- (3) 小出記念日本語教育学会をはじめとする学会などの口頭発表および予稿集での発表を発展させて新たな知見としてまとめたものは投稿できます。また、科学研究費補助金などによる研究の報告書に掲載されたもの、修士論文・博士論文の一部などで未公開の内容も投稿できます。ただし、これらの内容の場合、採用決定後に提出する印刷用原稿にその旨記載してください。なお、機関リポジトリなどWeb上でのみ公開されている博士論文については、未公開として扱います。
- (4) 『小出記念日本語教育学会論文集』では、特に日本語教育の現場の実践に基づいた研究の成果、および、現場と理論がどうつながるのかを問う内容など、教育実践系の論文や会員への啓発につながる報告を歓迎します。

2.3 使用言語

日本語または英語

2.4 投稿原稿などの書式

- ・日英両語とも横書きで統一
- ・用紙サイズはA4
- ・余白は上下3.5cm、左右3cmあけ
- ・1行全角38字（字送り11.2pt）、1頁35行（行送り18.35pt）
- ・投稿原稿は、必ず最新版のテンプレートを用いて執筆すること。コピー & ペーストにより、文字数・行数の設定が崩れる場合があるため、必ず書式を確認すること。

テンプレートはhttps://koidekinen.org/toko_kitei からダウンロードしてください。

※投稿原稿には執筆者名および執筆者が特定できるような情報や連絡先などは一切書かないこと。

2.5 投稿原稿の長さ

指定のテンプレートを使用し、本文（図表を含む）、注、参考文献、資料一覧を含む全体が次の分量に収まること。

- ・「研究論文」「実践報告」「調査報告」：15ページ
- ・「研究ノート」：8ページ

3. 投稿受付期間

毎年7月25日から同8月17日（日本時間の23時59分まで）

4. 投稿方法

論文投稿用フォームの必要事項を回答の上、投稿原稿をアップロードしてください。投稿用フォームは https://koidekinen.org/toko_kitei で後日公開します。

- (1) 本フォームにて記入する必要事項は https://koidekinen.org/toko_kitei よりご確認ください。
回答に問題がある場合は、投稿が受理されないこともあります。
- (2) 投稿原稿はMS-wordおよびPDFです。投稿の際はそれぞれ10MB以内にしてください。ただし、採用が決定した場合、必要に応じてデータサイズを大きくしての入稿を認める場合があります。
- (3) 投稿用フォームからの論文投稿ができない場合は、投稿締切1週間前までに小出記念日本語教育学会論文集投稿受付担当（下記10問い合わせ先）までご相談ください。

5. 投稿に関する注意事項

- (1) 投稿前に文法の誤りや誤字・脱字がなく、アカデミックな論文にふさわしい表現であることを確認してください。誤字・脱字、表現の不備が極めて多いと判断された場合は不採用となることがあります。必要に応じて論文執筆に関する知識のある第一言語使用者のチェックを受けることを推奨します。
- (2) 調査協力者がいる場合は、研究等の実施および公開に関し、同意を得ていること、また、人権・プライバシー等に関する内容が含まれる場合は、倫理的な配慮をしたことを本文中に具体的に記述してください。
- (3) 研究倫理の遵守を基本とし、捏造、改ざん、盗用、剽窃、不適切なデータ収集等の不正行為を行わないこと。研究倫理を逸脱したと認めざるを得ない場合は、採用を取り消すことがあります。
- (4) 査読の公平性を確保し、かつ論文集の質を維持するため、投稿受付後、原則として査読が終了し、採否が決定するまで、Web上への公開はいずれの場合でも禁じます。ただし、採用決定後に、投稿者による他論文の参考文献に「(印刷中)」と掲げ、引用することは問題ありません。
- (5) 投稿受付締切後、3日以内に論文集投稿受付 koide.ronbun@gmail.com より受領確認メールをお送りします。不備がある場合、受理できないこともあるため、必ずメールをご確認ください。論文集投稿受付からのメールが「迷惑メール」と判断される場合がありますので、「迷惑メールフォルダ」もご確認ください。

6. 採否の決定およびその通知

- ・採否は、編集委員会で厳正に審査し、決定します。結果は、投稿受付締切日から約2か月後に論文集投稿受付 koide.ronbun@gmail.com より投稿者のメールアドレス宛てにお知らせします。
- ・採用の場合、修正を加えてフォーマットを整えた最終原稿を提出していただきます。

7. 採択区分

次の4つの区分を設けています。

- (1) 採用：ほぼそのまま掲載、または、軽微な修正のうえで掲載
- (2) 条件採用：一部修正の上で条件がクリアされれば掲載
- (3) 今号再投稿：修正期間内に査読コメントに従って修正のうえで同号に再投稿し、改めて採否の判断を受ける
- (4) 今号には掲載しない

※査読の過程において、編集委員会が投稿者にカテゴリーの変更を提案することもあります。

8. 掲載論文の著作権

本論文集に掲載された論文の著作権は、投稿を受け付けた時点から、本学会に帰属するものとします。投稿された論文が掲載されないことに決定した場合は、決定通知の送信と同時に、著作権は執筆者に戻ります。

9. 論文の公開

『小出記念日本語教育学会論文集』は、2025年3月発行予定の第33号よりオンラインジャーナルに移行し、発行直後から全文が無料公開されます。

なお、32号までは冊子で発行し、発行から1年を経た号の論文は、小出記念日本語教育学会のウェブサイト <https://koidekinen.org/journal> で全文を無料公開しています。

10. 問い合わせ先

小出記念日本語教育学会論文集投稿受付 koide.ronbun@gmail.com

※投稿時に届け出た連絡先などは学会会員情報には反映されません。会員情報の更新は学会事務局へ別途お届けください。

以上